

札幌市立北都中学校の取組【読書：図書館活用授業】

1 研究のねらい

本校は、学校図書館司書が配置されて2年目を迎える。配置以前と比べ、図書館利用者数や貸出冊数が大幅に増加するなど、学校図書館の存在が大きくなってきている。このたび、札幌らしい特色ある学校教育推進事業における【読書】の研究実践校として、「自らすすんで本にふれようとする生徒」「読書を通して、自分の生き方を考えることができる生徒」の育成を目指し、学校図書館司書と連携しながら図書館を有効活用することに取り組んだ。

2 取組内容

(1) 実践準備

① 全校テレビ放送によるオリエンテーション・読み聞かせ

学校図書館司書の協力のもと、図書館の生徒が全校テレビ放送による図書館オリエンテーションを行った。図書館の利用方法や本の分類・並べ方などの基本について説明したことで、全校生徒にとって学校図書館が身近な存在となることをねらいとした。また戦争・平和について考えさせるために、学校図書館司書が選んだ本を局員が読み聞かせするという放送も行った。



② 読書アンケート

本校の生徒の実態を把握するために、読書に関わるアンケートを行った。質問事項は「1ヶ月に読む本の冊数」「1週間に読む本の冊数」「どんなジャンルの本を多く読むか」等である。他校の生徒と比較すると、本校生徒には次のような課題がみられた。

- ・他校と比べ「読む時間」「読む冊数が少ない生徒が多い。
(週 30 分程度と 1 時間程度の層の合計が全体の 60%)
- ・読むジャンルは 900 番台と 700 番台が多い。

上記の課題から授業で「読む必然性」をつくり、様々なジャンルの本の特性や本を読む価値について気づかせたいと考えた。



【全校読み聞かせ】

(2) 実践①

ノンフィクションの作品を読むことを通して、人間の生き方や社会の在り方を考える

題材「エルサルバドルの少女ヘスース」(中学3年 国語科)

中学校3年生の時期は、卒業後の進学先を考えるとというような狭い意味の進路だけではなく「他者とどう関わって生きていくか」「どのような社会をつかっていきたいか」「社会の中で自分自身はどのような役割を果たしていきたいか」という幅広い視点をもつことが重要であると考えた。この題材は紛争地域に



生きる少女ヘスースの生活を数年にわたって記録し、写真と文章で紹介したものである。過酷な環境の中、笑顔をとやさないヘスースの姿、互いに助け合う人々の姿がえがかれている。この作品を入口として、人間の生き方や社会の在り方を考える授業に取り組んだ。

学習の流れ

- 1、作品の中からヘスースの生き方・考え方がわかるエピソードやヘスースの言葉を抜き出す。
- 2、抜き出したエピソードや言葉を引用しながら、自分が考えたことをメモする。
- 3、ノンフィクションの作品の中から生き方や社会の在り方を考えるための本を選ぶ。
- 4、作品の中から印象に残ったエピソードや言葉を抜き出す。
- 5、エピソードや言葉を引用しながら、自分が考えた「生き方」「社会の在り方」についてスピーチ原稿の形でまとめ発表する。



【スピーチをきく】

(3) 実践②

読書記録を活用し、幅広い本を選んで読書に親しむ

読書記録シート及び、選書に関わる資料を生徒自身が一冊のファイルにまとめていく活動を行い、選書の参考とさせた。

【選書に関わる資料】

- ・学校図書館司書がすすめる本
- ・国語の教科書で紹介されている本
- ・各出版社が発行し無料で配布しているミニパンフレット



【教科書掲載本の紹介】

3 成果と課題

(1) 成果

実践の準備段階としてアンケートによる生徒の実態把握を行う決めることができた。授業の中で「読む必然性」をつくったり、様々な本と「出会う機会」を多くもたせたりすることは、一つのきっかけにすぎない。しかし、図書館司書が発行している図書館だよりを集中して読む生徒の姿や、友達のスピーチを聞いて、自分も読んでみたくなったと感想をもつ生徒の姿から、「自らすすんで本にふれようとする生徒」「読書を通して、自分の生き方を考えることができる生徒」を育成する種まきができたと考えられる。



(2) 課題

中学校において学校図書館を活用していくためには、各部・各教科との連携をさらに綿密にしていく必要があることを実感した。今回の実践も国語科の授業を中心として展開したが、さらに多くの場面で活用していくためには、その年度だけでなく、3年間を見通した各教科・総合的な学習の時間等の指導計画を共有し、学校全体で図書館利用に関わる意識向上をはかる必要があると考える。生徒向けのオリエンテーションだけでなく、教職員向けのオリエンテーションを充実させていくことで、学校図書館を利用できる場を増やしていきたい。